

第 1 回佐倉市総合計画審議会 要録

日 時	2019 年 2 月 1 日（金） 14 時 00 分～16 時 30 分
場 所	佐倉市役所 1 号館 3 階会議室
出席者	明石委員、淡路委員、石井委員、坂本委員、佐藤委員（会長）、遠山委員、橋本委員（副会長）、服部委員、安川委員、山本委員
事務局	岩井企画政策部長、和田企画政策課長、藤崎、東城、児島
その他	株式会社ぎょうせい 木戸
議 題	（1）会長、副会長の選出について （2）諮問書の手交について （3）総合計画の体系等について
配布資料	資料 1 第 5 次佐倉市総合計画策定方針 資料 2 第 5 次佐倉市総合計画策定に向けた基礎調査報告書 資料 3 第 5 次佐倉市総合計画に向けた市民意識調査結果報告書 資料 4 佐倉市の総合計画について 資料 5 第 4 次佐倉市総合計画（基本構想）
傍聴者	0 人

市長あいさつ

委員の皆様においては、佐倉市の最上位計画である総合計画の委員を快く引き受けていただき感謝する。この 10 年間で社会情勢が変化する中、とりわけ人口減少・少子高齢化は大きな問題と言える。

佐倉市においても、生産年齢人口が 60%を下回り、高齢化率が 30%を超えている。また、民生費が増加する中で、インフラ更新費用の増加など新たな財政需要も出てきており、対応を迫られている状況である。

このような状況の中で、次世代を担う子どもたちのための子育て支援施策や生涯活躍型の高齢者支援施策、防災力のさらなる強化など、次世代の佐倉市につながる施策を実行していく必要があると考えている。

2020 年度からの新たな総合計画は、AI や IoT など時代の流れに対応していくために、行政はもとより市民や各種団体など多様な主体と緊密に連携し、将来に希望の持てる持続可能なまちづくりの指針にすべきと考えている。

本日集まっていたいただいた委員の皆様は、様々な分野で活躍されており、行政とは違った貴重な視点を持っている。ぜひ、本審議会にて活発な議論をいただきたい。

（1）会長、副会長の選任について

- ・佐倉市総合計画審議会条例第 5 条第 2 項の規定に基づき委員の互選により決定
会長：佐藤委員、副会長：橋本委員選出

(2) 諮問書の手交について

- ・ 佐倉市総合計画審議会条例第2条による諮問書の手交

(3) 総合計画の体系等について

事務局	<p>資料1～3に基づき説明。その概要は、下記のとおり。</p> <p>資料1 第5次佐倉市総合計画策定方針 「2 総合計画の名称及び期間」について 次期総合計画の名称は「第5次佐倉市総合計画」、計画期間は12年間とする。</p> <p>「3 計画の構成」について 計画の構成は、3層構成（基本構想、基本計画、実施計画の3層）とする。基本構想を12年として、基本計画は4年計画、実施計画は3年計画として毎年度見直しを実施する。</p> <p>「4 策定にあたっての基本的な考え方」について 「市民協働」、「成果重視」、「戦略的かつ独自性及び実現性」、「職員の参画」などを主な考え方として、策定を推進する。</p> <p>「5 策定体制」と「6 スケジュール」について 策定体制は、市長をトップとした佐倉市総合計画策定本部会において計画素案を策定し、議会において議決をいただく。本部会の下には作業部会を置き、事務局の企画政策課が各種資料作成、調査等を進める。市民意見として、本審議会における5名の公募委員の意見、市民意見交換会や各種団体意見交換会等の意見、市民意識調査における意見を、計画に反映していく。最終素案が出来上がったところでパブリックコメントを行い、議会に上程する。本年の8月議会への上程を予定している。</p> <p>資料2 第5次佐倉市総合計画策定に向けた基礎調査報告書 「基礎統計」について 佐倉市の総人口は、減少段階に入っている。住民基本台帳では2013年、外国人も含めた総人口では2011年がピークとなっている。類似都市と比較すると、同規模自治体の中では、佐倉市は高齢化の進んだ都市と言える。</p> <p>「人口・世帯推計」について 自然体推計では、第5次佐倉市総合計画終了時点に近い2030年には、総人口は今よりも1万人ほど減少している見込みである。人口ビジョンに</p>
-----	---

	<p>掲げる出生率・純移動率が改善するケースにあっても、2060年に15万人の人口を維持することは難しい状況になっている。</p> <p>資料3 第5次佐倉市総合計画に向けた市民意識調査結果報告書</p> <p>「佐倉市は好きか」という設問に対し、肯定的な回答をした割合の合計は約9割となっている。年齢別にみても、転出の多い年齢層の地域への愛着が低いわけではない。また、施策の満足度と重要度によるCS分析によれば、重要改善項目に40施策中12施策が該当した。特に「交通環境」が突出して満足度が低い。</p> <p>佐倉市のイメージとして、「地域の歴史や伝統」や「自然環境」の割合が高いことは前回の調査と変わらないが、「居住環境の水準」、「買い物の便利さ」、「治安の良さ」に増加がみられる。</p> <p>資料2（基礎調査報告書）のP.6では、市民の東京への通勤割合に減少傾向がみられるが、資料3（市民意識調査）のP.19では、逆の傾向がみられる。どのように考えればよいのか。</p> <p>⇒（事務局）資料2のご指摘の箇所は国勢調査、資料3は市民意識調査（アンケート）をもとに算出しています。調査対象の違いによる齟齬と考えられますが、他の統計などとあわせて、さらに実態を検証します。</p> <p>資料3（市民意識調査）で、前回調査との経年比較が行われているが、例えば回答者の年齢構成などは前回と違いはなかったか。回答者の構成に違いがあった場合、経年比較の結果は変わってくるのではないかと。</p> <p>⇒（事務局）あらためて確認し、次回、回答します。</p> <p>事務局から策定方針の説明はあったが、市において実際の計画策定作業は進んでいることと思う。現状の進捗状況や具体的な策定の考え方など、現時点で説明できるものを教えてほしい。</p> <p>⇒（事務局）現在、策定作業部会と本部会を実施しています。策定作業部会においては、基本計画に位置づけている40施策の見直しを行っています。本部会においては、その進捗を報告しているという状況です。基本構想や基本計画の素案作成には、まだ至っていません。</p> <p>また、本日説明しました策定方針に基づいて計画策定を進めています。</p> <p>市民協働については、「佐倉市市民協働の推進に関する条例」に定められているとおり、本市は計画策定過程においては極力市民の参画を求めていることとしています。市民意識調査や市民意見交換会、団体意見交換会の実施、今回新たな取組として、市内の高校生ワークショップや千葉敬愛短期大学</p>
委員	
委員	
委員	

	<p>の学生によるワークショップを実施しました。計画素案ができた段階で、パブリックコメントも実施します。</p> <p>成果重視については、現行の総合計画においても毎年行政評価懇話会を実施し、進捗状況を評価しています。また、今回の計画では、成果指標の設定も検討しています。</p> <p>戦略的かつ独自性については、市独自の計画にするよう検討を進めていることと、現在総合計画では重点施策として位置づけている「佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の検討もあわせて進めています。</p> <p>職員参画については、策定作業部会に全ての部から代表者が参加しています。</p>
委員	<p>市民協働についての取組は理解したが、どのように計画に反映されていくのか。</p> <p>⇒（事務局）これまでの総合計画では、主として行政が実施することが記載されていましたが、今回の計画では、市民の役割や市民に期待することといった記載を行うことを検討しています。</p>
委員	<p>市民協働は重要な観点であるが、中間的な市民団体の状況もとらえておく必要がある。NPOなどの市民団体数の推移を、データとして市から提示できないか。</p>
委員	<p>様々なデータの報告をいただいたが、バランスよくまとまりすぎていて、何が重要で何が課題かが見えづらい。新たな計画策定にあたり、課題を集約する必要があるのではないか。</p>
委員	<p>焦点をしぼって議論をしていく必要があると思う。資料3のP.36 各施策分野のCS分析の重要改善項目（重要度が高く満足度が低い施策）を、いかに解釈していくかが重要ではないかと思う。</p> <p>特に気になっているのが、交通環境が突出して低いことである。佐倉市の公共交通がそこまで悪いとは思えない。原因は何にあるのか。</p> <p>その他の重要改善項目では、子育て支援、高齢者福祉、雇用の3本を重点的に考えることも重要。（満足度が低いのは）少子高齢化が一因であろう。それに対して「ひとづくり、つながりづくり、まちづくり」が重要で、いずれの省庁も取り組んでいるが、それぞれ視点が違う。「つながりづくり」について、佐倉市として重点的に検討していく必要があるのではないか。</p>
委員	<p>資料3のP.36については、福祉関係は際限がなく、なかなか高い満足度になるのは難しいのではないか。交通環境については、私も恵まれてい</p>

委員	<p>るほうではないかと感じるのだが、渋滞などが原因なのかもしれない。</p> <p>日常の仕事の中で、これからのまちづくりにおいては民間事業者の役割はさらに重要なものになっていくと実感しており、この会議の中でも、そうした視点で議論に参加していきたい。</p> <p>佐倉市は、医療については比較的充実した状況にあると思う。福祉については、特別養護老人ホームが急激に増加し、介護職員の確保が心配な状況である。外国人就労者による働き手の確保の必要性も出てくるのではないかな。</p> <p>最も心配しているのは介護認定審査会で、近年佐倉市は要支援認定が多く、要介護認定が少ないと感じる。要支援者の割合は、全国でも上位だったのではないかなと思う。適正な審査が行われているか、少し心配している。</p> <p>また、地区による状況の違いも懸念される。志津あたりは高齢化率もそれほどではないが、高水準の地区もある。そうした地区の中には、バスが1日2本しか走っていない地区もあり、厳しい状況にあると感じる。</p>
委員	<p>福祉の問題も重要であるが、住宅の問題も並行して考えていかなければならない。佐倉市は、空き家対策に先進的に取り組んでおり、成果もあがっている。うまくはいつているが、それは対症療法であることも認識しておく必要がある。</p> <p>人口推計では、20年後には総人口が20%減少する。このことは、それだけ空き家が増える可能性を示している。現在行政も対応を進めているが、市全域にわたって空き家が増加すると、行政だけで対応していくのは困難である。</p> <p>また、本審議会についてだが、単に要望する場ではなく、委員がアクションを起こす場である必要がある。そのためには、委員側も、ある程度要望の答えをもって臨む必要があると思う。</p>
委員	<p>佐倉市民カレッジは非常にレベルの高い取組だと思うが、卒業生がその蓄積を地域で発揮できる場所がない。うまく活用できるチャンネルを作ることができればよいと思う。</p>
委員	<p>30年ほど前に佐倉市に移住を決めたとき、都心まで電車で58分ほどであること、分譲地が多く教育水準の高い人の移住が多いこと、環境がよいことなどが要因であった。特に、これから発展するという期待が持てたことが大きい。</p> <p>今の佐倉市はインターネットで調べても通勤圏都市としてはヒットしない。また、車社会になっており、直接接続できるバス路線がない公共施設も多く、高齢者や子育て世帯には暮らしづらい状況になっているのではないかな。そうしたことが、市民意識調査の交通環境への不満にあらわれて</p>

委員	<p>いると思う。</p> <p>幼児教育無償化が今後実施され、幼稚園・保育園・認定こども園とすみ分ける時代は終わり、質を問われる時代になってきたと認識している。佐倉市の特質を生かしながら、地域と連携した子育て支援を実現していく必要がある。</p> <p>「歴史と文化のまち」は佐倉市の特質ではあるが、実は「歴史と文化のまち」というのは、印旛沼周辺のまちは掲げているところも多い。その中で佐倉市の教育を突出したものにしていくためには、市民一人ひとりのレベルで、自分たちのまちの特質への意識を高めていく必要がある。</p> <p>また、半年前にNPO法人を立ち上げ、地域食堂を検討中だが、NPOなどの団体が単独で自主的な活動を進めるのではなく、行政も一体となって活躍できる場を作っていく必要があるのではないか。</p> <p>さらに、連携ということでは、佐倉市には良いイベントがあり、まちづくりを担う団体はそれぞれ一生懸命やっていて、方向性も同じなのに、一堂に集うような場が現状ではない。例えば香取市佐原地区では、行政や各団体が一体となる取組があると聞いている。</p>
委員	<p>身のまわりの団体の方でも、行政に協力を求めたいものの窓口がわからないという方はいる。みんなで集うというのはよいと思う。</p> <p>佐倉市は坂が多く、高齢者には暮らしぶらいところはあると思う。地域の独居の高齢者も、まちづくりや地域活動などをやりたいと言っている方は多い。</p> <p>高齢者や外国人が増え、まちが変わってきている中、佐倉市の住みよさや魅力をうまく伝える計画であってほしいと思う。</p>
委員	<p>お話を聞いていて、集いの場のような取組について、市に直接所管する課がないのではないかと思った。せつかくの市民の意向がもったいない。</p>
委員	<p>策定義務がなくなっても総合計画を作るのはよいと思う。策定方針をあらかじめ提示しているのもよい。</p> <p>策定方針の中の市民協働について、総合計画策定後も市民が参画できるような仕組みが必要と思う。</p> <p>休耕地の多い地区で人・農地プランを策定しているが、総合計画と寄り添いながら進められるとよいと思っている。農業振興のひとつの方向性として、道の駅のような農業交流施設が地域に必要でないかと思っている。</p>
会長	<p>商工連携は取組があるが、農業との連携はなかなか進んでいない。今後、検討する必要がある。</p>

副会長	<p>今必要なのは、元気な高齢者が頑張る仕組みづくり。働くということではなく、75歳までは元気に頑張れる場が必要だと思う。NPOは事務的な負担があるので、そうした部分の負担軽減を図り、高齢者が現場で頑張れるような取組ができないか。</p> <p>フリーダムトレイルのような、市内を歩いてまわれるような環境づくりができないか。観光振興ではなく、市民が自分たちのまちを歩き、愛着や誇りを持てる環境づくりが必要だと思う。</p> <p>佐倉市のイメージは印旛沼沿いの風車、佐倉市の利点は東京まで1時間、成田まで30分の立地だと思う。オランダをイメージできるような園芸作物で、6次産業を展開していくことはできないか。</p>
会長	<p>キーワードは連携だと思う。あらゆるところで連携が必要と感ずることがある。</p>
事務局	<p>資料4、5に基づき説明。</p>
委員	<p>国全体が人口減少や経済低成長の問題を抱える中、衰退の時代に入っていると感ずる。政策においても「守り」の考えが必要と思う。まち「づくり」ではなく、「守る」というフレーズも必要ではないか。</p> <p>また、これだけ様々な議論がされて、一生懸命に計画を作っても、市民は認識しているのだろうか。発信の仕方にも検討の余地があるのではないか。</p>
委員	<p>先ほど佐倉市がインターネットにヒットしない話もあったが、そのあたりの要因分析も重要ではないか。</p>
委員	<p>ビジュアル的にわかりやすいものにする方向性には賛成だが、その理念が先行して大事なメッセージが伝わらなくなることには気をつけなければならない。</p> <p>連携という言葉が本日の会議でも多く聞かれたが、連携のための話合いの場を持った場合、行政対市民の対立構図になるケースがみられる。そのようなことになると行政職員も取り組む意欲がなくなってしまうと思う。市民においても、その点を踏まえて、取組に参画してほしいと思う。</p>
副会長	<p>うまくいっているまちは、行政の方は縁の下の力持ちという感じで、住民の取組を支えるような立場でやっていると聞く。ぜひ市民の取組に力添えをいただきたい。</p>
委員	<p>佐倉市に必要なのは、ランドマークになるようなものを外から持ってくるよりも、埋もれた資源を生かすことだと思う。例えば城下町に関する</p>

<p>委員</p> <p>会長</p>	<p>る資源は多数あるが、資源が点在しており線になっていない。様々な分野で点を線にする取組が必要と思うが、市民が個別に行うのはなかなか難しい。そうしたコーディネート部分は、行政が担うのが望ましいのではないか。</p> <p>持続性という観点も重要だと思う。例えば、「北総四都市江戸紀行」が日本遺産に認定され、では次にどうつなげるかという持続的な視点を計画に位置づけることも重要。</p> <p>また先ほど農業の話が出ていたが、農業関係者に、佐倉市ならではの特産物と呼べるものはないという意見を聞いている。それならば、例えば学校などで地産地消を推進するとよいのではないか。</p> <p>例えば、武家屋敷と城址公園、美術館の間に、整備された道がなく、分断されている状態。こうした資源は、面として整備することで効果が出てくる。</p> <p>これをもって本日の会議を終了する。</p>
---------------------	--